

おかか達の革命 米軍砲弾試射場をとめた

1952年から53年にかけて大闘争があった石川県河北郡内灘町における米軍基地反対闘争を風化させないとして、昨年12月10日、松下MPホールにて「内灘闘争65周年記念集会」が開催された。

集会実行委員長の大野 進さんは開会あいさつで「内灘闘争とは内灘砂丘で在日米軍が試射場として無期限使用することを閣議決定し米軍の試射が強行され、反対派の県民や大阪、名古屋など各地から学生が参加し、労働組合など支援団体も座り込みすることで撤退させ勝利した」と話された。

当時20才だった杉村雄二郎・竹子夫妻からは「県民のおかか達が抗議の座り込みを交代で毎日続けていた中、北陸鉄道の労働者が『米軍の物資を輸送させないストライキ』を決行し、物資を止めた。その影響で全国から支援する団体や市民が増え、国会に陳情する行動も取り組んだ。かかわらず政府は永久接収の方針を決めたが、県民の闘争力と組織力で試射場の土

地は57年に返還された。沖縄の基地問題も同じような現状が続いているが運動を拡大し阻止しよう」と訴えた。



自衛隊配備反対！
各地からの訴え

自衛隊基地建設、配備反対として当該の現地から報告がなされた。佐賀から民間空港の自衛隊基地共用反対とオスプレイ配備反対を訴えられた。奄美では、市民に対し基地建設の説明会を開かない防衛省・自衛隊と、これを容認する奄美市当局と保守議会の実態。これに抗して、住民たちは駐屯地建設の差し止めを求める住民訴訟を起こした。

宮古島では、とりわけ駐屯地予定地の野原の住民たちは、厳しい状況に追い込まれながらも、必死の反対行動を開始している。

石垣島では昨年5月、防衛省の石垣島駐屯地計画の発表に対して、計画に反対する800人の老若男女が集まり、大集会が行われた。創意工夫された集会は「文化で勝つ」という石垣島民の抵抗の底力を見せつけた。防衛省は徹底して住民たちへの「宣撫工作」に力を入れているが、これはまさしく島を「軍事要塞島」として強化していくためである。

第2部の平和コンサートでは、古謝美佐子さんが平和への願いを年々強く増してきて、魂の叫びともいえる「黒い雨」を涙ながらに唄った。その後、17歳だった69年、「時には母のない子のように」で歌手デビューしたカルメンマキ&デラシネバンドの歌と演奏で終了した。

平和に暮らす権利を侵害されるのは、絶対に許してはいけません。これからも次世代に反戦の歴史を繋げるために各地の反対闘争と連帯しましょう。

(執行部 陣内)

だんけつ



発行 港 1-12-27
大阪 区 築 港
全日本 港 湾 労働 組 合 関 西 地 方 大 阪 支 部
発 行 責 任 者 國 分 仁 昭



迎春 労働者が政治を変えよう

執行委員長 樋口万浩

「めでたさも中ぐらいなりおらが春」という気分ではありませんが、新年を迎えたことで、まず、明けましておめでとうございますと述べさせていただきます。

組合員の皆様におかれましても、健やかな新年を迎えられていることと思います。

アベ政治を許さない！

第2次安倍政権成立以降、安倍総理が行ってきた悪政の主なものを挙げて、特定秘密保護法の制定（13年12月）、武器輸出三原則の廃止（14年4月）、集団的自衛権の解釈変更（14年6月）、戦争法強行可決（15年9月）、インドとの原子力協定締結（16年11月）、「共謀罪」制定（17年6月）など、従来の自民党政権が躊躇していた政策が強引に押し進められてきました。

昨年、安倍総理は10月、臨時国会冒頭に「モリ・カケ」隠しの大義なき解散を強行しました。政治の私物化と言えます。

衆議院選挙結果は、定数465のうち自民284、公明29、維新11、これに希望50を足すと374となり、改憲発議に必要な3分の2（310）を優に超える数となり、安倍は「国民の信を得た」として、改憲に突っ走る可能性が強まりました。しかし、議会での多数獲得は、支持率が反映されない小選挙区制の結果です。

事実、全国世論調査における内閣支持は43.8%、不支持は44.1%で、「モリ・カケ」問題で落ちた支持率は回復していません。また、安倍政権下での「憲法改悪」に賛成は34.9%、反対51.3%となっています。安倍の言う「国民の信を得た」は詭弁に過ぎません。

悪法の成立を阻止しよう

安倍政権は、1月19日開会予定の通常国会において、労働法制については「働き方改革関連法案」の一括成立を目論んでいます。さらに、社会保障制度の改悪や増税など、われわれ労働者にとって看

過できない政策を強行しようとしています。

総選挙直前、小池都知事と前原民進党代表により、野党が混雑させられましたが、逆にこのことにより「立憲民主党」が誕生しました。大阪支部が求めていた、いわゆるリベラル派の結集軸ができたこととなります。私たちは、労働者不在の政治を止めるためにも、社民党と共に、応援します。

討論集会では多くの意見を

昨年8月の「組織強化拡大討論集会」で出された要望に十分に答えきれていない面もありますが、最近の分会代表委員会では、分会からの意見も少ないように見受けられます。

1月13日～14日の春闘討論集会においては、活発な意見で参加のほどをお願いするとともに、今年1年、団結して、私たちを取り巻く労働と生活環境の向上と組織強化拡大に向け奮闘しましょう。

NEW YEAR HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR HAPPY NEW YEAR

歓迎 新加入組合員 (2016.12～2017.11)

(敬称略・順不同)

大阪サンエー分会 成 富 英 樹 新 谷 謙	大阪機船分会 大河内 孝一 佐野 翔 兵	日東陸運分会 山 本 剛	尼神運輸分会 橋 剛 史	ミナト産業分会 園 田 恵 一
此花荷役分会 伊 藤 悠 太 金 津 啓 介 福 本 直 希	尾道加藤分会 津 田 侑 之 細 谷 宏 之 杉 原 克 治	神崎運輸分会 伊良原 陽 一	ナニワ生コン分会 西 村 悟	大森分会 北 本 利 男
双和運輸倉庫分会 古 屋 隆 長 尾 政 明 山 本 昇 一 玉 置 勝 彦 羽 地 秋 雄	尾道加藤分会 木 村 正 登 磯 田 清 正 木 下 貴 之 井 上 和 彦 木 梨 賢 一 山 崎 穰	大和運輸分会 牛 神 誠	一心港運分会 小 継 建 治 和 田 英	大正埠頭分会 中 島 直 紀 芳 野 栄 次
	尾道加藤分会 八 木 昭 久 柿 本 文 一 櫻 井 修 司 奥 雄 幸 川 本 剛 志 澤 木 俊 孝		サウザンズ分会 富 永 祐 香 里 尾 崎 ひ ろ み	



半導体労働者の健康と人権を守る

もうひとつの約束事

執行部 陣内 恒治

2003年3月、サムスン半導体器興工場に入社したファン・ユミさんは2007年3月6日、弱冠、22才で白血病に罹災して亡くなった。

韓国では、2013年からこの労災裁判を描いた映画『もうひとつの約束』が上映され、サムスンが隠してきた職業病問題、半導体労働者の危険な作業環境を世に知らせる契機となった。

家族を招いて集会

昨夏からは、日本各地でも上映会が行われてきたが、事実をより詳しく知ろうと、関西労働者安全センターと日韓労働者連帯の主催により、韓国から家族を招き、「なくそう労災職業病・交流会」が11月1日、エルおおさか大ホールにて、約100名が参加して開催された。



集会では、父のファン・サンギさんと社労士のイ・ジョンランさんが、今日までの経過を話された。

韓国では、娘の死の原因を明らかにしようと、ファン・サンギさんの呼び掛けで2007年11月、支援団体「半導体労働者の健康と人権を守る会・パノリム（通称）」が結成された。

パノリムは企業と政府に対し、2007年、ファン・ユミ氏の遺族給

付金給付申請から始め、2017年5月から現在まで、勤労福祉公団に83人の労災申請を行うなど、労災撲滅に向けて10年間闘ってきた。

しかしサムスは、職業病の責任を認めるところか、わずかばかりの「慰労金」で済ませ、労災隠しの体質は現在も続いている。依然として、サムスン電子は化学物質の情報や作業環境の情報は企業の営業秘密だとして公開していない。変わったものがあるとすれば、数百人に増えた被害者の数で、サムスン半導体・LCD工場だけで230人の被害者が明らかになった。若い20～30代が多くて、癌など4大重症疾患の症状を訴えてきた人たちだ。すでに79人が亡くなった。

政府（労働部）も、徹底的にサムスンの肩を持ち、メディアも終わったかのように報道していない。サムスンの労働者は、労働組合さえ許されない工場で、理由も分からないままに死んでいった。それでも労働者の労災死亡に対して、サムスンの経営陣はただの一度も処罰されたことがない。

サムスン社前テントで籠城

サムスンは対話もせず、解決しようしない態度で、パノリムは問題解決するため、ソウル江南（カンナム）駅前のサムスン社前で800日以上、テント籠城（座り込み）している。

そこでは、亡くなった76人の労働者の意思を表現するために、ゴム靴に花を植えている。通行人た

ちが草花を販売しているお店だと勘違いして、「値段はいくら？」と聞いてくる。「この花は販売目的でなく、サムスン半導体やLCD工場で働き、パノリムに死亡したと申告された方が76名なので、彼らのために作った」と話すと、通行人は驚かれます。

サムスはパノリムに対し、誰にも言わずに10億ウォンで解決しようとしたが、パノリムは「他の被害者や遺族にも、サムスンから正当な謝罪と正当な補償を受けるのが当然」として拒否した。



また、裁判所は「労働者の知る権利は企業の営業秘密より優先する」として、営業の秘密より労働者の生命が優先であると判決した。政府機関が認めたことで、社会的にも注目されている。

なくそう労災職業病・交流会

この映画を通じてたくさんの方が関わってきました。パノリムの闘いはサムスンの謝罪だけでなく職業病がなくなるまで続けるでしょう。それには労働組合が労働環境を改善させる闘いが必要である。私たちは「もうひとつの約束」をみて、韓日連帯で、“もうひとつの約束”をしました。その約束とは「職業病をなくす」こと。感情労働や職業病など労働者の安全・安心を守る労働組合が頑張ることが求められている。これからも連帯した行動で、解決し職業病をなくそう。

2018 第9期 意見広告スタート！

沖縄の現状を伝え、共闘を呼びかける

副委員長 小林 勝彦

「第9期沖縄意見広告運動スタート集会」が、12月1日、学働館・関生にて開催され、支部から10名が参加しました。集会は総勢200名の参加で、会場が埋め尽くされました。

「沖縄意見広告運動」とは、沖縄の痛みを全国の人びとの痛みとして受けとめよう！と「普天間即時閉鎖、辺野古の（海・陸）新基地建設やめろ、海兵隊はいらない」のスローガンで、2010年3月に発起しました。賛同者を募り、国内・海外の新聞へ意見広告を公表可能な方たちの名前を、デザインして掲載することで、反対の声を広めようとしています。



賛同者15,000人を目標！

賛同者数は、第1期の4600人からスタートして、年ごとに増え続け、第8期には目標の1万人を大幅に超えた12,548人となりました。

広告活動と同じく大きな使命を持って活動しているのが全国キャラバンです。沖縄の基地負担が減るところか、新たな基地建設が進む現状とオスプレイの日本各県の訓練飛行停止を求め、2013年に山城博治氏（前沖縄平和運動センター事務局長・現沖縄平和運動センター議長）を隊長に、キャラバン隊が

発足され、スタートしました。当時は、オスプレイの訓練飛行ルートである「イエロールート」大分、福岡、熊本【オレンジルート】和歌山、徳島、高知、愛媛【ブルールート】新潟、群馬、長野、富山、岐阜の各県庁に飛行受け入れ拒否の要請行動と各地要所で街頭ピラマキ活動などをしました。



2015年に大阪支部が正式に意見広告運動の事務局に参加してからは、最新の沖縄の現状を各地に知らせて反対運動を広げるため、沖縄からスタートをして九州・中国・四国・北陸・東海・関東ルートを形成し、街頭ピラ配布や各地方の労組・ユニオンを訪問して、沖縄の現状報告と意見広告運動への賛同要請を行っています。

マスコミは 真実を伝えない

本来、マスコミが沖縄の問題、戦争の危機感を正確に報道しなければならない。にも拘らず政府からの圧力や“忖度”により本来の

責務を果たしていません。また、現地で基地建設反対運動に参加している市民に対し、防衛局・海上保安庁・機動隊・警察が



暴力による排除や、不当逮捕を繰り返し、権力を盾に弾圧を行っています。しかし、ネットでは、あたかも反対をしている市民が暴力的に抗議をしているかのように、嘘で固められた書き込みがされています。

直ちに工事の中止を！

安倍政権は政府や米軍にとって都合の悪いことは隠し、市民が抵抗した場面だけを公に晒して国民感情をあり、民主主義や民意を無視し、戦争に繋がる基地建設を推し進めています。

米軍基地問題は沖縄だけでなく日本の問題です。私たちは2017年の運動方針で確認された「反戦・反核・平和と民主主義・環境を守るたたかい」を軸に、基地をなくし、戦争のない平和な暮らしができるまで、今年も団結して闘いましょう。